

# 令和3年度前期 卒業証書授与式 卒業生代表挨拶

事務部 番場 晴美

## 卒業式に読まれた卒業生代表挨拶をご紹介します

本日はコロナ禍の中、私達卒業生のために、この様な素晴らしい式を開いて頂きありがとうございます。校長先生をはじめ、諸先生方、ならびに関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



私は、姉の影響を受け、海外でスカッシュというラケットスポーツを行っていました。スカッシュとは、4つの壁に囲まれた部屋に対戦相手と共に入り、ピンポン玉ぐらいの大きさのボールを交互に壁に打ち合うスポーツです。室内競技のため、大会にオフシーズンがなく、練習の毎日だったため、八洲学園大学国際高等学校へ入学するまでは、学校生活の思い出がほぼない状態でした。

競技をする中で、姉は負けず嫌いで運動神経が良くジュニア時代から期待の選手として活躍していました。

しかし、私は正反対で、勝ち負けに無頓着、運動神経も良い方ではありませんでした。そのため、誰も私には期待しておらず、すぐ辞めると思われながら過ごした日々。その中で、私は『人は人』という考えのため、姉をうらやむというよりは、自慢の姉として共に競技生活を送っていました。

勝敗に無頓着だった私ですが、ある試合で負けた事がとても悔しく、『もう負けたくない』その思いから、誰よりも練習を頑張りました。その事で、私は走る事が誰よりも速くなり、一度試合に負けた相手にも勝つことが出来るようになりました。また大会では結果を残すことが出来、日本代表選手にも選ばれるまでに成長しました。スカッシュという競技を通して、私は『どんな人でも、どんな事でも、頑張れば出来る』という事を学びました。そして、競技生活を送る中で、家族の大きなサポートがありました。私を支え応援してくれた家族に心から感謝しています。ありがとう。

姉は八洲学園大学国際高等学校の卒業生です。私もこの学校へ入学し、高校卒業を目指す事になりました。沖縄集中スクーリングでは、先生と仲良く話す事が出来た事や、友達がたくさん出来た事が嬉しかったです。休み時間には職員室にあるギターを友人が弾きライブをしたり、みんなで遊んだり、今まで感じる事が無かった学校生活の楽しさを知る事が出来ました。

昨年度2月のスクーリングは『スポーツ大会』がテーマのスクーリング。みんなで一緒に体育祭のような時間を過ごす事が初めてだった私は、この時間がとても楽しかったです。その時出逢った仲間とは、現在も連絡をとったり遊んだりしている、大切な関係となっています。

コロナ禍の中で過ごしたスクーリング期間は、様々な制限がありましたが、その中で、先生や友達とバスケットやバドミントンをしたり、UNOをしたりと、みんなで楽しい時間を過ごす事が出来ました。ありがとうございました。

高校卒業後は、海外の大学へ進学を目指しています。そして、将来は野生動物の保護や、飼育員など、動物に関わる仕事に就くことが目標です。

八洲学園大学国際高等学校は、私にとって『人との関わり方を学ぶ事』が出来た大切な場所でした。私の自慢の学校です。本当にありがとうございました。

令和3年9月19日 卒業生代表 渡邊 安佑未

